

愛知国際病院ホスピスだより

2009. 7

〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山 987-31

電話 代 表 (0561)73-7721

ホスピス (0561)73-3191

10周年にあたって

理事長 川原 啓 美

当愛知国際病院にホスピス病棟が設立されてから満10年になります。地域のニーズ、終末医療に対する時代の流れの中で、愛知県下最初の施設としての出発でありました。

当病院はその創設の理念の中にある、「地域と共に、地域に支えられる」施設として発展したいとの強い思いがありました。それが最もはっきりあらわれたのは、このホスピス病棟であったと思います。設立3年前に「愛知国際病院にホスピスを作る会」が結成され、病院と共に、①愛知県内でホスピス運動の先駆的活動を続けている「あ



いちホスピス研究会（永井照代会長）」、②豊田市内でボランティア活動を強力に推進されている「豊田ボランティア協会（現財団法人あすて 理事長 豊田彬子氏）」、③ホスピス建設地を提供して下さった「名古屋キリスト教女子青年会」（YWCA・当時諏訪昭子理事長）がメンバーとなり働きを担って下さいました。各団体の呼びかけ、作る会の活動により、広く市民の方々から多額のご寄付をいただきました。その流れの中で、1996年9月、ボランティアグループ「紫苑」が発足し、私たちと共に準備活動を始めて下さいました。当時から引きつづきご協力いただいている「紫苑」グループのボランティアの方も何人かおられます。

10周年に当たり、このホスピスが設立の時、さらには設立後の運営についても、賛助会の皆様はじめ多くの方々の熱いお祈りとご支援によって今日在ることを思い、心より感謝を覚えます。そして今後とも変わらぬご支援、ご指導くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

愛知県で最初のホスピスとして産声を上げてから10年が経過しました。本館3階病棟でスタートした創設期に、その礎を作り上げて下さった細井順医師を初めとするメンバーの顔とともに、様々な思い出がよみがえります。この間、本当に多く方のご支援をいただき感謝いたしております。患者さんとの出会いは1400回にも及び、その度に私たちは学び、成長させていただきました。

今ではホスピス緩和ケア病棟の数が増え、愛知県内でも13施設になりました。当初は愛知県の全域から、また県外からの患者さんも多く見受けられましたが、最近では周辺地域の方が増え、より一層地域のホスピスらしくなりました。

ホスピス・緩和ケアという言葉も随分浸透したと思います。しかし、言葉は知っていても具体的にどういうところか知らない方が多いと感じます。特に、ホスピスでは「痛みなど様々な症状を和らげる（緩和）」ということをご存じでも、もう一つの「ホスピスは余命が限られた方が、命の燃え尽きるその時まで、その人らしく生き抜くところ」ということを知らない方がたくさんいらっしゃいます。また、ご自分の病気の状態を十分に理解し、早い段階からホスピスも含めて、今後どうしていきたいかを考えられている方も多くありません。最近では、がん治療を終えたらホスピス緩和ケア病棟へという流れが出来ています。がん治療を終えた後、自宅に退院するか、ホスピ



「友情の丘」は、10年を経て、美しい庭になりました。この庭をはじめ、ホスピスにはたくさんの方のあたたかい思いが込められています。

スに転院するかはの二者択一をせまられ、自宅が無理なのでホスピスを選択するしかない場合も増えてきています。オセロのように白と黒しかないのは残念なことです。

医療制度や社会状況の変化の中で、ホスピスの役割も変化してきました。今までのように、ホスピスに入院されたら天に召されるまでここで過ごす、ということだけではなくなくなっていくでしょう。ランプのカードを一枚選ぶように、沢山のカード（やり方）の中から選択できるように、進化をしていきたいものです。

どんなに周囲の状況が変わろうとも、変わらないことがあります。それは、いつもホスピスでは新たな出会いがあり、そして別れがあることです。そして今後も私たちを取り巻く環境は、様々な変化をしていくと思いますが、「暖かなもてなし」の心で「自宅のように過ごしていただきたい」という気持ちは変わりません。今後ともよろしくお願いいたします。

10年の間にホスピスで過ごされた多くの方々のお顔を思い出します。ホスピスにはお一人おひとりの記録ノートがあり、時に、お名前が浮かんでこなかったりすると、そのノートを開きます。確か5年ほど前だったかなと思うのもっと以前であったり、ある方をお探しすることで、他の方のお名前を見つけて「ああそうだった、このころだったな」と、その当時のことを思い出することがあります。幸い、愛知国際病院ホスピスには勤続年数の長い看護師がいるので、時にその思い出を共有できるのは、私にとって大切な癒しとなっているように思います。また、ご家族がふと訪ねてくださる時にも、お互いの思い出を分かち合い、魂の深いところで感謝の念を覚えます。

ホスピスを作るときの募金のためのコンサートの名前に、「いのち輝く」とつけたように、それぞれの人生の最期に、その人なりに本当に輝いた時を過ごされた方々を思い出します。また、苦しみをすべて取り除くことが難しく、終わりの時に安らかなお顔を拝見して「今やっと病気の苦しみから解放されましたね」とお声をかけさせていただいた方もありました。中にはホスピスをお勧めしましたが、一般病棟の窓からホスピスを眺めて「ホスピスには入らない」と、結局そのまま過ごされた方もおられました。お一人おひとりの、それぞれの思いにお応えするという姿勢を大切にしていきたいと思います。最近では、ホスピスと一般病棟と一緒に学び、考えるときが持たれるようになりつつあります。ホスピスで培われた、さまざまな癌の患者さんと共にあるということが、一般病棟でも生かされています。

この10年の歩みに関わってくださった、ボランティアお一人おひとりのお顔も浮かんでまいります。メンバーの優しい関わりに、度々、家族の方々から感謝の言葉をいただきました。ボランティアの働きの大きさを思われます。

10年が経って、愛知県にホスピス、緩和ケア病棟がいくつもできてまいりました。人を大切にする医療が当たり前となることを願いつつ、これからも、医師、看護師、その他の職員、ボランティアとともに、ホスピスのある病院として、愛と思いやりを大切に歩いてまいりたいと思います。



「寄り添い」

週一回、ホスピスでは音楽療法士の歌声が聞こえます。患者さんのお部屋からかすかに聞こえてくることもあれば、ラウンジで患者さんやご家族の会話とともに聞こえることもあります。プロの声楽家でもある伊神妙子さんも、開設以来、ホスピスを支えています。

ホスピスで思うこと

ホスピス医師 大村 浩之

私は典型的な一人っ子です。自分が何も言わなくても周りがいろいろ世話をやいてくれる環境で育ったので、自己主張することは苦手です。他人から悪く思われたくないという自己防衛反応が強いので、余計に自己主張を控えて、なるべく波風立てないように生きてきました。

しかし愛知国際病院ホスピスに勤務してからは、自分の意見を述べる機会がこれまでの職場に比べてずっと増えました。カンファレンスは毎日おこなわれ、意見を出し合ったうえでチームとしての方向性を導き出します。私は医師として、主に病状分析や症状緩和の方策について意見を求められます。これまでは自分の頭の中だけで考えて方針を決め、それをスタッフに伝えることもあまりなかったのですが、ここではそうはいきません。しどろもどろでわかりにくい私の発言を、あたたかく傾聴してフォローしてくれるスタッフに支えられながら、少しずつ意見をまとめられるようになってきたように思います。

また、ホスピスではレクチャーや症例検討会なども活発に行われており、そこでも意見を求められる機会があります。自分の考えを言語化して発表し、スタッフと話し合うことを繰り返すうちに思考が深まっていくことも実感しています。まだまだ人前で意見を述べるのは苦手ですが、チームケアの一員として医師の役割を果たせるよう努めていきたいと思っています。

チームで織りなすケア

ホスピス看護師長 水野 寿美子

地域の皆さんのお支えによってできたホスピスで、働かせていただいていることを感謝いたしております。

私たちは、患者さんやご家族に「自宅のようなホスピス」と感じていただけるように、「おもてなし」の心をもって、丁寧なケアに努めています。

患者さんはご自身の病気を受け止め、様々な思いを持ちながら、ホスピスにおいでになります。その思いはお一人おひとり違いますが、患者さんは限られた時間を、それまでの日常性（季節や習慣）を大切にしつつ、ご家族とともに精一杯過ごされます。

ホスピスでは10年の歳月を経る中で、患者さんからチームケアの重要性を教えてくださいました。主治医、看護師、ボランティア、音楽療法士、牧師、その他コメディカルは、患者さんと関わらせていただき、それぞれの立場で感じたことをもとに、明日のケアに生かすにはどうしたらよいかを話し合います。チームで関わるからこそ気づかされることがたくさんあります。これからも患者さんに寄り添い、チームで織りなすケアを大切に、ささやかなお手伝いをさせていただきたいと思っています。



招き入れてくださるのは

チャプレン 中井珠恵

チャプレン（病院付の牧師）の働きは、患者さんそれぞれの部屋に伺って話をお聴きし、心身の苦痛のために思うように生活ができなくなってもなお、生きることの意味を一緒に見出すことです。

以前、まだチャプレンの訓練中、指導者にこんなことを言われました。

「患者さんにとってチャプレンはセールスマン（ウーマン）みたいなものだよ。医師や看護師は治療のためになくってはならないけれど、チャプレンはそうじゃない。部屋に入った時に患者さんに招き入れられてもらえないと何も始まらない」。

この言葉は患者さんのお部屋へ伺うたびに思い出されます。Aさんは、肺がんによる呼吸困難のため、不安そうに眉間を寄せておられました。Aさんの足元には奥様が腰掛け、Aさんを優しく見つめながらAさんのひざを屈伸しておられました。そして「お父さんは動き回っていないとだめな人だから、せめて足を動かして歩いているみたいな感覚を思い出させてあげたい」と、おっしゃいました。すると自然に自分の目にもAさんのただここに苦しんで横たわっている姿ではなく、元気に仕事をしている姿が思い浮かびました。それからお部屋へ伺うたびに、奥さんがAさんの人生の営みを一つ一つ語って下さいました。



「招き入れる」とは、ただお部屋に入れて下さるのではなく、患者さんや家族の人生の物語に伴わせて下さることでもあるのだと知りました。「生きる意味探し」の導き手は患者さん・家族ご自身だと改めて思います。

ホスピスをとおして思うこと

ホスピス看護主任 成田昌代

谷川俊太郎さんの“生きる”という詩集がホスピス病棟に寄贈されました。本の帯に「ふだん私たちは自分が生きているということ意識せずに生活しています。でも時に、『ああ今、自分は生きているんだ』という生々しい感覚に襲われることは誰にでもあると思います。この感覚は理詰めに出てくるものではありません。何の理由もなく心と体の深みから湧き上がってくる、感覚というより感動というべきものかもしれない。」と書いてありました。

ホスピスで働いていると「辛くありませんか」と尋ねられることがあります。私は「辛くはありません」とお答えします。死ぬこと、別れることが辛くないというわけではありません。でも、その理由をはっきりと答えられない私がいましたが、この本を手にとって思いました。ホスピスで働く私たちも、「心と体の深みから湧き上がってくる感動というべきもの」をいただいているからかもしれないと。

この本は患者さんの部屋にありました。とても苦しい症状を体験するなかで、強く優しい笑顔で私たちに接して下さっていました。患者さんは、人が生きるということはこんなにも大変で、でもこんなにも尊く大切なことであると、その方なりの表現で教えてくださいました。私はこれからもホスピスで働き続けていく限り、その一瞬一瞬の教えを大切に受け止めてケアにいかし、最期を迎えるその時まで、生きることへのケアを考えていきたいと思えます。

ボランティアの自由

ボランティアコーディネーター 高田 清子

ボランティアの1日の始まりは、ボランティアルームでのミーティングです。「申し送り」と言っていますが、ホスピス師長から、その日の病棟の予定（入院・退院など）と、ボランティアが活動するために必要と判断された患者さんのご様子が伝えられます。

例えば「昨夜はあまり眠ることができなかつた様子です」という申し送りがあった患者さんの場合、ボランティアはどうするかというと、入室前に担当ナースに相談する、ドアのノックの音をいつもより小さくして反応を聞く、しばらく入室は止めておくなどさまざまです。「これでよし」という正解はありません。ボランティアのお花やお茶やマッサージといった活動はゆとりをもたらすもので、その場の状況によっては必要とされない場合もあり、それをどう感じ取っていくかがとても難しいのです。「指示がほしい」と思うこともあります。

けれども、このような「ゆとり」の活動だからこそ、許されている自由がボランティアにはあるのではないのでしょうか。入室をすることもしないことも自由です。それはボランティアの都合ではなくて、「眠れなかつた」患者さんのつらさや苦しさに思いを寄せて、どうするかを自身が考え行動する自由です。申し送りのひとつの情報から、自分自身の五感を最大限に働かせて、患者さんの声を聴こうとすることは、とても豊かなことだと思います。こちらの気づく力によって、どこまでも可能性が広がっていきます。

これからもこのような体験を重ねながら、ボランティアとして成長させていただき、少しでも質の高い活動を提供できればと願っています。



「継続」

「私にもできることがある」とおっしゃって、ご自身が患者さんでありながら、美容師としての技術をいかして、ホスピスでボランティアをされた方がおられました。資生堂美容室で働く多数のスタッフが、亡くなられた同僚のころざしを嗣いで、毎月2回美容ボランティアを続けてくださっています。



「そこにいること」
ホスピスができたときから、
協力牧師として週に一度、
ラウンジいてくださる
篠田潔氏。
患者さんやご家族とお話する
こともあれば、ご要望の
ない日もあります。
お出会った患者さんのも
とには、数日後、篠田牧師
から絵手紙が届きます。

賛助会員募集のお知らせ

愛知国際病院ホスピスでは、賛助会員を募集しています。アメニティーの充実（施設環境、造園、園芸）、ホスピスでの諸行事、ホスピス相談の充実、広報啓蒙活動、家族会の開催、ボランティアの活動、教育活動のために是非ご協力をお願いいたします。（ご入会いただいた方には年4回発行の病院だより「みなみやま」と年2回の本誌をお送りいたします）

入会方法

下記の口座に会費をお振り込み下さい。

郵便振替口座 00890-5-3757

口座名義 愛知国際病院ホスピス賛助会

一口1000円（おいくらでも結構ですが、できましたら5口以上でお願いいたします）

明日葉の会へのお誘い

明日葉の会は、愛知国際病院ホスピスで大切な家族の看取りを経験した方々が集まり、思いを声に出し、分かち合う会です。「明日葉」という植物は、今日摘んだ芽が明日には伸びてくるというほどの生命力の強い植物で、それにあやかり会の名前としました。家族を看取られてから半年以上を過ぎた方を対象として、偶数月の第3土曜日午後2時から4時、病院の一室をお借りして集いを行っています。続けて来られる方も、間を空けて来られる方もおられますので、ご都合がつく時に自由にご参加ください。

会費は集いのときに300円を頂いています。詳しくは世話人（家族代表）の太田博文までお問い合わせ下さい。

連絡先 〒470-1153 愛知県豊明市前後町三ツ谷1277-3 太田博文

TEL0562-92-2294 Fax0562-92-8294 E-mail h-ohta@pop21.odn.ne.jp

ホスピス診療記録 (2008. 4-2009. 3)

- 1) 入院総数111人 男性48人 女性63人
(退院総数111人)
- 2) 平均年齢 72.3才
- 3) 平均在院日数 53.8日
- 4) ベッド利用状況 1日平均患者数 16.4人
病床利用率 81.8%

原発臓器

肺	22	大腸	3
胃	16	子宮	2
結腸	14	食道	2
膵	12	腎	2
直腸	8	卵巣	2
乳	5	歯肉	1
胆管・胆嚢	4	耳下腺	1
肝	4	盲腸	1
咽頭・喉頭	4	甲状腺	1
膀胱	3	脳	1
前立腺	3	合計	111

退院患者住所分布

県外の内訳

大阪府	1	合計	1
-----	---	----	---

愛知県の内訳

名古屋市	66	豊田市	2
日進市	11	三好町	1
春日井市	7	東海市	1
瀬戸市	5	犬山市	1
豊明市	4	稲沢市	1
東郷町	4	大府市	1
尾張旭市	4		
長久手町	2	合計	110

賛助会収支報告

収入

賛助会 372口 5,858,000

支出

研修・研究費 545,888

環境設備費 1,016,074

消耗品費 831,506

食材費 1,126,686

広告通信費 731,440

建築費補填・運営費 1,606,406

合計 5,858,000

紹介病院一覧

- 愛知県がんセンター中央病院 (24)
- 医療法人名古屋記念財団 名古屋記念病院 (15)
- 名古屋第二赤十字病院 (12)
- 愛知医科大学病院 (9)
- 名古屋大学医学部附属病院 (9)
- トヨタ自動車株式会社 トヨタ記念病院 (3)
- 春日井市民病院 (3)
- 独立行政法人 国立病院機構名古屋医療センター (3)
- 名古屋市立大学病院 (3)
- 地方職員共済組合愛知県支部 三の丸病院 (2)
- 国立長寿医療センター (2)
- J A 愛知厚生連 豊田厚生病院 (2)
- 名古屋通信病院 (2)
- 独立行政法人 労働者健康福祉機構 旭労災病院 (2)
- 三つ葉在宅クリニック栄 (2)
- 医療法人清水会 相生山病院 (1)
- 藤田保健衛生大学病院 (1)
- 独立行政法人 労働者健康福祉機構 中部労災病院 (1)
- 名古屋市立緑市民病院 (1)
- 名古屋市立東市民病院 (1)
- 医療法人大医会 日進おりど病院 (1)
- 笹本内科医院 (1)
- 三つ葉在宅クリニック山中 (1)
- 三浦内科クリニック (1)
- MTクリニック (1)
- 医療法人昭新会 前田クリニック (1)
- 医療法人徳洲会 名古屋徳洲会総合病院 (1)
- 医療法人白楊会 白楊会病院 (1)
- 医療法人雄志会 川瀬医院 (1)
- 北医療生活協同組合 北病院 (1)
- 深谷胃腸科外科 (1)
- 長久手南クリニック (1)
- あいち診療所野並 (1)
- いずみが丘クリニック (1)
- タンポポククリニック (1)
- 三崎クリニック (1)
- 医療法人 神谷メディカルクリニック (1)
- 足立内科循環器科 (1)
- 堀内クリニック (1)
- 木下医院 (1)
- 医療法人徳洲会 野崎徳洲会病院 (1)
- 土岐市立総合病院 (1)
- 公立学校共済組合 関東中央病院 (1)

(順不同・重複有)